

年 譜

日本の TQC と歩みをともにした石川先生

年 譜／日本の TQC と歩みをともにした石川先生

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1915年(大4) 7月13日	・石川一郎，富美子の長男として 東京市瀧野川区西ヶ原で生ま れる	・ Shewhart：管理図を考案(1924) ・ 小倉金之助：統計的方法の生産工程へ の応用を示唆(1924) ・ Fisher：“Statistical Methods for Research Workers” 刊行(1925) ・ 石田保士(東京電気)電球製造に統計的 方法を導入(1929) ・ Dodge・Romig：選別型抜取検査方式 を発表(1929) ・ Shewhart：“Economic Control of Quality of Manufactured Products” 刊行(1931) ・ 石田保士：管理図(巻物と俗称)考案， 電球製造工程を管理(1931) ・ 桐淵勘藏：『工業管理学』で品質統制と して品質管理を紹介(1931) ・ Pearson：“The Application of Statistical Methods to Industrial Standardization and Quality Control(後のBS600)” 刊行(1935)
1923年(大12) (8歳)	・ 東京高等師範学校附属小学校入学	
1928年(昭3) (13歳)	・ 東京高等師範学校附属中学校入学	
1933年(昭8) (18歳)	・ 東京高等学校入学	
1936年(昭11) (21歳)	・ 東京帝国大学工学部応用化学科 入学	
1937年(昭12) (22歳)	・ 大学2年夏休暇を利用，学友向 坊隆氏(後の東大総長)と4週 間北海道・樺太(現サハリン) のパルプ工場，石炭鉱山，ビ ートシュガー工場などを見学 旅行。このほか満州(現中国・ 遼寧)方面にも見学旅行 ・ 日本化学会会員	
1939年(昭14) 3月31日 4月1日 5月30日 (24歳)	・ 東京帝国大学工学部応用化学科 卒業 ・ 日産化学工業[㈱]入社，王子研究 所勤務 ・ 海軍造兵中尉 (海軍第2期短期現役技術士 官として海軍勤務。この間， 乗艦実習で重巡洋艦「摩耶」 に乗り組む) ・ 日本電気化学協会会員	・ Shewhart：“Statistical Method from the Viewpoint of Quality Control” 刊行

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1940年(昭15) (25歳)	・工業火薬協会会員	・全日本科学技術統同会発足(日本科学技術連盟の前身)
1941年(昭16) 3月29日 5月30日 6月1日 (26歳)	・海軍造兵大尉 叙正七位 ・予備役被仰付 ・日産液体燃料(株)建設技術課勤務 乾留炉(ルルギ式)建設に従事 ・燃料協会会員	・北川敏男, 河田龍夫, 増山元三郎ら: 統計科学研究会を設立, 機関誌『統計研究』創刊 ・“Z1・1 Guide for Quality Control”, “Z1・2 Control Chart Method of Analysing Data” 制定(ASA)
1942年(昭17) 2月11日 5月 11月1日 (27歳)	・氏家蕙子と結婚 新居: 東京市瀧野川区西ヶ原 ・若松工場転勤 日産液燃社宅へ転居(福岡県 若松市) ・海軍技術大尉 ・化学工学協会会員	・“Z1・3 Control Chart Method of Controlling Quality During Production” 制定(ASA) ・全日本科学技術連合会研究隣組1001, 1002設置, 品質管理(Quality Control: QC)の研究開始 ・Pearson 著, 石田保士・北川敏男訳: 『大量生産管理と統計的方法』刊行 ・米国, 軍需生産局 QC 講習会(1942年か ら全米各地34回2000名参加)
1943年(昭18) (28歳)		・山内二郎を中心とする数理統計学者: 軍の工場の QC 指導 ・Dodge: 連続生産型抜取検査(CSP-1) 発表 ・北川敏男: 1回および2回抜取検査方 式発表
1944年(昭19) 3月17日 (29歳)	・長男忠誕生	・大日本技術会(日科技連の前身)設立 工政会, 日本技術会, 全日本科学技 術統同会が発展的解消 ・文部省統計数理研究所設置
1945年(昭20) 秋	・日産液体燃料(株)本社へ転勤, 東京 都北多摩郡調布町上石原へ転居	・A.Wald: 逐次抜取検査法発表 ・日本規格協会設立(12月)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1945年(昭20) 10月25日 (30歳)	・長女裕子誕生	
1946年(昭21) (31歳)		・アメリカ品質管理学会(ASQC)設立, “Industrial Quality Control”誌発 刊(2月-68, “Quality Progress”に改 題) ・大日本技術会発展的解消, 日本科学技 術連盟設立(5月)(会長 石川一郎, -70) ・『規格と標準』誌発刊(8月, JSA) ・経済団体連合会設立(9月, 初代会長: 石川一郎) ・Magil 等: 日本電気玉川事業所で QC 指導(GHQ, CCS) ・Rice 使節団(デミング博士を含む)来日 (日本の統計調査機構調査のため)
1947年(昭22) 1月18日 (32歳)	・東京帝国大学第一工学部助教授 (石油工学科製油工学第三講 座) ・石炭のブリケットの研究に従事	・国際標準化機構(ISO)設立(2月)
1948年(昭23) 11月20日 (33歳)	・次男哲誕生 ・統計的方法の勉強を大学院生今 泉益正らと始める(東大) ・日本大学教官協会会員 ・日本工業教育協会会員	・統計学講習会を開催(QCを広く紹介) (8月, 応用力学会) ・品質管理研究会発足 [1949秋頃から, QC リサーチグループと呼ばれるよう になった] (JUSE) ・日本電気玉川事業所: Sarasohn の指 導で Z1・1-1・3による QC 実施 (GHQ, CCS) ・Magil, Sarasohn, Reck 等: 通信機メ ーカーで QC 講義 ・電気通信研究所: 購入品に抜取検査適 用(日本電信電話公社)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1949年(昭24) (34歳)	・勤務講座名称の変更:「製油工学第三講座」から「燃料工学講座」へ(東大) ・品質管理セミナー・ベーシックコース講師(JUSE) ・QC リサーチグループに参加 QC の研究を開始(JUSE)	・企業の QC 指導開始(西堀栄三郎ほか) (5月, JMA) ・QC 講習会(2日間)(6月, JSA) ・工業標準化法(JES は JIS に統一, JIS マーク表示制度を設定, 7月) ・品質管理セミナー・ベーシックコース 開講(1 カ年間, 2 回目から 6 カ月 間)(9 月, JUSE) ・海外技術調査委員会設置(そのテーマの ひとつは品質管理調査)(JUSE) ・GHQ-CCS 講座
1950年(昭25) (35歳)	・『品質管理』誌編集委員会副幹事 長(-52, JUSE) ・品質管理セミナー・ベーシック コースにおいて初めての講義, Rice 著 “Control Chart” の 紹介(7月21日 JUSE) ・品質管理方式研究委員会運営委 員(JSA) ・『統計的方法と実験計画法』講習 会講師(-58, 日本化学会関東 支部, 12月7~9日)	・日科技連『品質管理』誌創刊(3月) ・『規格と標準化』誌が『JIS』誌に改題 (3月, JSA) ・JIS 表示許可制度(3月) ・農林物資規格法(JAS マーク)(5月) ・デミング博士: QC 8 日間コース, トッ プ向け 1 日コース等, 約70日間滞在, 講習会開催(7-9 月, JUSE) ・品質管理方式研究委員会発足(抜取検 査, 管理図等 JIS 作成開始, 後に管 理方式研究会, COSCO と名称変更) (JSA) ・集団による QC 指導: 富士製鐵輪西製 鐵所(西堀, 水野, 石川, 草場, 今泉)
1951年(昭26)	・学科改組により応用化学科化学 工学専修課程燃料工学講座勤 務(東大) ・デミング賞委員会委員 同賞実施賞小委員会副委員長 (-85) ・サンプリング研究会幹事長 (JUSE)	・“Reports of Statistical Application Research, JUSE” 創刊(以下, JUSE 英文レポートと略称)(3 月, JUSE) ・QC 委員会発足(7月, 日本鉄鋼協会) ・デミング賞[本賞, 実施賞]創設(6 月, JUSE)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1951年(昭26) (36歳)	・品質管理大会委員長(-71, JUSE) ・JUSE 英文レポート編集委員 ・アメリカ品質管理学会会員	・デミング博士来日(7-10月, JUSE) 第1回デミング賞授賞式を第1回品質管理大会と併せて举行(大阪, 9月, JUSE), 初受賞: 本賞 増山元三郎, 実施賞 昭和電工, 田辺製薬, 富士製鐵, 八幡製鐵 ・市場調査委員会発足, 市場調査セミナー開講(11月, JUSE) ・サンプリング研究会創設(12月, JUSE)
1952年(昭27) (37歳)	・『品質管理』誌編集委員会委員長(-78, JUSE) ・日本工業標準調査会臨時委員(通産省) ・「統計的方法と品質管理」講習会講師(-54, 日本化学会近畿支部/JUSE) ・デミング賞本賞受賞 ・『工場におけるサンプリング』刊行(7月, 丸善)	・デミング博士来日(1月, JUSE) ・小柳賢一: 第6回ASQC年次大会で日本のQC紹介(5月) ・第2回品質管理大会(毎年11月東京で定期開催)(JUSE) ・ASQC日本支部発足(12月) ・米国防省: AGREEを設置, 信頼性研究開始 ・日本工業標準調査会: 国際標準化機構(ISO)加入 ・統計科学研究会『新編統計数値表』刊行
1953年(昭28) (38歳)	・特性要因図を考案(川崎製鉄葺合工場で適用) ・標準化と品質管理セミナー教務主任(JSA)	・OR教育コース開講(6月, JUSE) ・品質管理と標準化セミナー開講(JSA) ・工業標準化実施優良工場表彰, 通産大臣賞, 工業技術院長賞, 通産局長賞を創設
1954年(昭29) (39歳)	・群馬大学非常勤講師(-66) ・『品質管理入門』刊行(JUSE) ・日経品質管理文献賞受賞『工場におけるサンプリング』(丸善)	・ジュラン博士来日: 45日間の滞在中に, QC社長重役特別講座, 部長課コースを開催, 併せて日本産業の現場を視察(7-8月, JUSE) ・日経品質管理文献賞創設(11月) ・ISO/STACO(標準化原理委員会)発足 ・工業標準化振興週間設置 ・神奈川県QC研究会発足(神奈川県工業試験所)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1955年(昭30) (40歳)	・品質管理セミナー・ベーシックコース「管理図部会」,「サンプリング部会」部会長(JUSE) ・『管理図法』(編著)刊行(改訂版62/10月, JUSE 出版社)	・品質管理セミナー・ベーシックコース講師会設置(JUSE) ・日本生産性本部(JPC)を設立, 訪米生産性視察団派遣開始(3月) ・官能検査部会発足(4月, JUSE) ・品質管理セミナー・部課長コース開講(5月, JUSE) ・実験計画法セミナー開講(5月, JUSE) ・JUSE 出版社創立(6月)(66/11月に日科技連出版社と改称) ・日本のQC実施状況調査(JSA) ・日本産業訓練協会設立, TWI, WSP の普及開始 ・標準化講習会開講(JSA)
1956年(昭31) (41歳)	・ASQC 日本支部支部長(-58) ・日本短波放送「QC 講座」に出講	・『JIS』誌が『標準化』誌に改題(1月, JSA) ・品質管理セミナー入門6日間コース開講(4月, JUSE) ・『オペレーションズ・リサーチ』誌創刊(6月, JUSE) ・日本短波放送「QC 講座」開講(7月~57年12月, JUSE) ・中国品質管理研究会発足(JSA 広島) ・実験計画法セミナー開講(JSA) ・ヨーロッパ品質管理機構(EOQC)発足 ・A. V. Feigenbaum: 論文“Total Quality Control”を“Harvard Business Review”に発表
1957年(昭32)	・ラジオ講座講師(-62, NHK 第2放送) ・標準化文献賞受賞 「社内規格作成上の要点」(『品質管理』誌掲載 [140])	・品質管理春季大会創設(大阪, 5月, JUSE) ・日本オペレーションズ・リサーチ学会設立(6月) ・品質管理セミナー・重役特別コース(軽井沢)開講(7月, JUSE)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1957年(昭32) (42歳)	・ゴルフを始める ・『サンプリング法入門』刊行(6月, JUSE 出版社)	・官能検査セミナー開講(9月, JUSE) ・関西品質管理研究会発足(JSA) ・技術士法施行, 生産管理技術士誕生 ・George Box: EVOP を発表 ・ラジオ講座: 新しい経営とQC(57), 生産管理基礎講座(58), 生産管理入門(59), やさしい生産管理(60), 品質管理入門(60), やさしい品質管理(61), 品質管理入門(62) (NHK 第2放送)
1958年(昭33) 2月 (43歳)	・工学博士の学位取得(東京大学) 学位論文“石炭のサンプリングについて” ・品質管理専門視察団(団長: 山口襄)の副団長として渡米(1月, JPC) ・日本石油学会会員 ・『品質管理ガイドブック(上)(下)』(編著)刊行(改訂版(上)63/7月, (下)64/11月, JSA)	・信頼性研究委員会発足(10月, JUSE) ・標準化全国大会(第1回東京)(10月, JSA) ・デミング賞実施賞中小企業賞創設(11月)初受賞: 中与通信機製作所 ・九州品質管理研究会発足(JSA) ・四国品質管理研究会発足(JSA) ・QC スライド販売(JSA) ・小西・田口: 『直交配列表とわりつけの型』刊行, 線点図を発表
1959年(昭34) 2月1日 (44歳)	・第1回 QCG(QC GOLF)大会 場所: 熱海ゴルフ ・学科改組により化学工学科燃料工学講座勤務(東大) ・JUSE 英文レポート編集委員会委員長(JUSE) ・通産省技術士試験委員(-61) ・産業合理化審議会委員(-61) ・部課長のための QC 講座講師(JSA)	・Shewhart 博士来日: 各地で講演 ・部課長のための QC 講座開講(JSA) ・検査セミナー開講(JSA) ・工業標準化法施行10周年記念 『わが国の工業標準化』刊行(工技院) ・NHK 教育テレビ, 品質管理・標準化の教育: これからの工場(59), 工場経営シリーズ(60), QC シリーズ(60), 標準化シリーズ(60), 中小企業の標準化(61)
1960年(昭35) 4月1日	・東京大学工学部教授 ・品質月間委員会委員長(-89)	・テレビ講座「これからの工場」(-61, NHK 教育テレビ) ・QC の進め方講習会開講(JSA)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1960年(昭35) (45歳)	・COSCO 抜取検査部会規格合理化分科会主査(-72, JSA) ・「売手と買手の品質管理的10原則」発表 ・テレビ講座「これからの工場」講師(-61/3, NHK 教育テレビ) ・『職・組長のための品質管理テキスト(A), (B)』(共著)刊行(日科技連出版社)	・官能検査大会開催(10月, JUSE) ・デミング賞10周年記念行事: Deming, Rao, Wilks, Cochran, Hamerker 招待(JUSE) ・デミング博士叙勲, 勲二等瑞宝章 ・11月を品質月間に制定, Q 旗制定, 地方講演会, 月間テキスト刊行, ポスター配布など実施 ・NHK 教養特集「日本製品の品質」(品質月間参加番組)(NHK 第2放送) ・全国工業高校校長会: 品質管理講演会開始
1961年(昭36) (46歳)	・学科改組により燃料工学科第四講座(応用燃焼学)勤務(東大) ・実験計画法セミナー入門コース講師(JUSE) ・ISO/TC102 国内委員会委員 サンプルング専門委員会委員長(-81, 日本鉄鋼連盟) ・燃料協会賞受賞	・QC 部課長コース, 現場監督者 QC コース開講(中産連) ・実験計画法入門コース開講(4月, JUSE) ・アジア生産性機構(APO)設立(5月) ・日本, ISO/TC102(鉄鉱石)幹事国 ・日本消費者協会設立(9月) ・『品質管理』誌“現場長特集号”発行(11月, JUSE)
1962年(昭37) (47歳)	・『現場とQC』誌編集委員会委員長(JUSE) ・COSCO 規格部会長(-71, JSA) ・日本化学会理事(-64) ・QC サークル本部幹事 ・『品質管理便覧』(共著)刊行(改訂版77/6月, 新版88/4月, JSA) ・標準化文献賞受賞 『日本工業規格について』(JSA)	・日科技連『現場とQC』誌創刊, QC サークルの結成を提唱(4月) ・QC サークル本部日科技連内に設置(5月, JUSE) ・北海道品質管理研究会(JSA) ・品質管理現場長コース開講(JSA) ・日本, IEC 理事国(-68) ・米国マーチン社, ZD(Zero Defect)運動開始(8月) ・品質管理セミナー・経営幹部特別コース開講(9月, JUSE) ・職組長品質管理大会, 消費者大会開催(11月, JUSE)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1963年(昭38) (48歳)	・ ISO/TC102/SCI 第 1 回国際会議議長(-81, 日本鉄鋼連盟) ・ 日本工業標準調査会委員(本務：基本部会)(通産省)	・ ISO/TC102(鉄鉱石)第1回会議東京で開催, 日本：SC1(鉄鉱石のサンプリング)の幹事国 ・ 第 1 回 QC サークル大会(5 月, 仙台) ・ 第 1 次品質管理海外視察チーム, 米国に派遣(団長小柳賢一)(5月, JUSE) ・ 品質管理研究グループ(QCRG)(JSA) ・ 『信頼性文献抄訳集』刊(10月, JUSE) ・ トップ・マネジメント品質管理大会開催(11月, JUSE) ・ MIL-STD-105D を制定(MIL-STD-105A → B → C を大幅に改訂) ・ 『Q-S 英文リポート』発刊(JSA) ・ アメリカ・ヨーロッパ・アジアの QC 実施状況調査(APO)
1964年(昭39) (49歳)	・ 成蹊大学非常勤講師(-70) ・ アジア各国の代表を迎えての「品質管理シンポジウム」(東京)で特別講演ならびにディスカッション・リーダー(APO) ・ 『日本工業規格における製品規格のまとめ方』刊行(JSA) ・ 日本生産性本部参与	・ 小柳賢一：ASQC エドワーズ・メダル受賞(5 月) ・ 「管理点」についての発表(松山 QC 大会 5 月, JUSE) ・ アジア各国の代表を迎えての「品質管理シンポジウム」(東京)で開催(8 月, APO) ・ QC サークル関東, 東海, 近畿, 北陸各支部発足(9 月, QC サークル本部) ・ 『標準化』誌が『標準化と品質管理』に改題(4 月, JSA) ・ 第 1 回長野 Q-S 大会(JSA) ・ 米国国防省：軍需会社に対して ZD 運動の採用を勧告

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1965年(昭40) (50歳)	・第2次品質管理海外視察チーム団長(JUSE), ASQC 年次大会で QC サークル活動紹介 ・品質管理シンポジウム組織委員(-78, JUSE) ・JIS M 8100『粉塊混合物のサンプリング方法通則』制定(原案作成委員会委員長)	・『現場と QC』誌, FQC 賞創設(1月, JUSE) ・信頼性セミナー入門コース開講(2月, JUSE) ・QC サークル中国・四国支部発足(6月, QC サークル本部) ・品質管理シンポジウム創設(年2回開催, QCS と略称)(7月, JUSE) ・粉塊混合物サンプリング日米合同シンポジウム(11月, 東京) ・日本電気が ZD 運動を全社に実施 ・新製品開発教室を開設(JSA) ・東北品質管理研究会発足(JSA) ・第1回 QCS “QC の導入・推進・定着” ・第2回 QCS “QC 部門のあり方”
1966年(昭41) (51歳)	・第10回 EOQC 大会(ストックホルム)出席, QC サークルの特別討論会で壇上に招かれる ・国際品質アカデミー(IAQ)設立準備 6 人委員会委員(-69) ・科学技術庁調査員	・デミング賞実施賞事業部賞創設 初受賞: 松下電器産業(株)部品事業本部(11月) ・ジュラン博士: 第14回 QC サークル大会(関東支部)招待(4月, JUSE) ・信頼性セミナー・部課長コース開講(7月, JUSE) ・QC コンピュータ・コース開講(9月, JUSE) ・鈴木武, アラブ連合 QC 指導(UNIDO) ・「QC サークルの歌」制定(11月, QC サークル本部) ・田口玄一: 『統計解析』刊行, SN 比紹介 ・第3回 QCS “検査の問題点(その1)” ・第4回 QCS “買手と売手の関係”

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1967年(昭42) (52歳)	・品質管理セミナー・職組長基礎コース運営委員会委員長(-71, JUSE) ・ICQC'69-TOKYO 組織委員会委員(-69, JUSE) ・Q-S大会実行委員(JSA) ・「買手と売手の品質管理的新10原則」(改訂案)発表 ・『分散分析法入門』(共著)刊行(11月, 日科技連出版社)	・品質管理セミナー・職組長基礎コース開講(1月, JUSE) ・ICQC'69-TOKYO 組織委員会発足(9月, JUSE) ・世界保健機構(WHO)が医薬品製造品のQCについて勧告 ・品質管理と標準化全国大会発足(Q-S大会と略称, JSA) ・第5回 QCS “工程解析” ・第6回 QCS “オートメ化, コンピュータ化時代におけるQC(1)”
1968年(昭43) (53歳)	・東大紛争始まり, その影響を受ける。 ・発展途上国向け工業標準化品質管理セミナー主任講師(-74, OTCA/JSA, 74-, JICA/JSA) ・営業部門セミナー運営委員長(-82, JUSE) ・『現場のQC手法』刊行(日科技連出版社) 英語版: “<i>Gide to Quality Control</i>” (1st ed. 74, rev. ed. 76, 2nd rev. ed. 82), フランス語版(84), イタリア語版(85), スペイン語版(85), インドネシア語版(86), ヘブライ語版(88), オランダ語版(89), ポルトガル語版(契約済み, 未刊)(APO) ・標準化文献賞 『製品規格のあり方・作り方』(JSA) ・『管理図』刊行(JSA)	・発展途上国に対し工業標準化とQCの研修を開始(第1回東京4カ月)(-74, OTCA/JSA, 74-, JICA/JSA) ・第1次QCサークル海外派遣チーム(1-FQCT)(団長: 今泉益正)(4月, JUSE) ・営業部門のための日科技連コース開講[75-営業部門のための品質管理セミナー](8月, JUSE) ・ZD全国大会(JMA) ・JISの利用状況と工業標準化の経済的効果調査実施(工技院/JSA) ・日本: ISO 理事国(-71) ・日本生産科学協会設立(10月) ・QCサークル九州支部発足(11月, QCサークル本部) ・第1回VE全国大会(日本VE協会) ・ASQC, 機関誌 “<i>Quality Progress</i>” に改題 ・台湾品質管理チーム来日(職組長QC大会, 部課長スタッフQC大会出席) ・第7回 QCS “品質保証と信頼性” ・第8回 QCS “営業活動とQC”

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1969年(昭44) 5月23日 (54歳)	・長女裕子，黒川 湛と結婚 ・大学改革準備調査会管理組織専門委員会委員長(-70，東大) ・日本品質管理学会設立準備委員(-70) ・ICQC'69-TOKYO テクニカルセッション委員会副委員長 ・日本工業標準調査会委員(ISO 部会，通産省) ・ASQC フェロー(-86) ・通産大臣表彰 標準化事業功労 ・日経品質管理文献賞受賞 『化学者および化学技術者のための統計的方法』，『化学者および化学技術者のための実験計画法(上)，(下)』(東京化学同人)	・ICQC'69-TOKYO(初の世界的規模でのQC国際会議)を東京で開催(10月，JUSE) ・IAQ 設立会議(10月，東京) ・関西 ZD グループ発表大会(JMA) ・事務営業部門 QC 活用講座開講(JSA) ・自主管理(JK)活動委員会 JK 発表大会(日本鉄鋼連盟) ・第1回栃木 Q-S 大会，第1回東北 Q-S 大会開催(JSA) ・山梨県 QC 研究会(甲府商工会議所) ・社内標準化と品質管理のアンケート調査実施(工技院/JSA) ・工業標準化法施行20周年記念事業：『わが国の工業標準化20年の歩み』刊行 ・第9回 QCS “日本の QC の特徴と問題点” ・第10回 QCS “日本の QC の反省と前進”
1970年(昭45) 1月20日 (55歳)	・父一郎逝去(84歳) ・日本品質管理学会設立実行委員会副委員長(-71) ・台湾に QC サークルを紹介，石川馨の訪台を契機に，第1回全国 QC サークル発表大会開催(PETT，台湾) ・ISO/TC 69国内委員会委員長(JSA) ・発展途上国向け「機械関係製造業の生産管理コース」講師(-78，UNIDO/AOTS) ・『QC サークル綱領』(編著)刊行(改訂90/10月，JUSE)	・石川賞創設，同賞委員会発足(6月，JUSE) ・日本品質管理賞を創設(8月，JUSE)，初受賞：トヨタ自動車工業㈱(11月) ・官能検査海外視察チーム派遣(5月，JUSE) ・訪ソ標準化ミッション(団長：東 秀彦)を派遣(JSA) ・第2回粉塊混合物サンプリング日米合同シンポジウム(10月，ハワイ) ・World Standard Day 制定：10月14日(ISO) ・日本品質管理学会創立総会(11月) ・第11回 QCS “計画と品質” ・第12回 QCS “製品の安全および公害とQC”

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1971年(昭46)	・改組により，反応化学科第四講座(反応管理工学)勤務(東大) ・日本品質管理学会副会長(-74) ・勲日本科学技術連盟理事 ・環境保全サンプリング研究会委員長(-81, JUSE) ・信頼性・保全性シンポジウム組織委員会副委員長(JUSE) ・購買・資材部門のための日科技連コース運営委員長(JUSE) ・QCサークル洋上大学学長(JUSE) ・国際部会長(JSA) ・ISO/TC 69国内対策委員会委員長 ・『QCサークル活動運営の基本』(編著)刊行(改訂76/7月, 第3版91/4月, JUSE) ・日本品質管理学会会員	・職組長のためのQC通信教育基礎講座開講(1月, JUSE) ・QCサークル北海道支部発足(3月, QCサークル本部) ・信頼性シンポジウム[74-, 信頼性・保全性シンポジウム]開催(4月, JUSE) ・日本品質管理学会設立(4月, 初代会長 原 安三郎) ・環境保全サンプリング研究会設立(5月, JUSE) ・QCサークル洋上大学開講(6月, JUSE) ・管理方式研究会国際委(JSA) ・日本品質管理学会機関誌『品質』創刊(9月) ・デミング賞委員会によるQC診断創設 ・日本:ISO理事国に再選 ・購買・資材部門のための日科技連コース開講[75-, 購買・資材部門のための日科技連コース](10月, JUSE) ・多変量解析研究会発足(11月, JUSE) ・全日本選抜QCサークル大会開催(11月, JUSE)「QCサークル本部長賞」創設 ・中部品質管理協会設立 ・第13回QCS“これからのQCスタッフのあり方-1970年代の課題” ・第14回QCS“品質の評価”
(56歳)		
1972年(昭47) 10月27日	・長男忠，井上紀子と結婚 ・第7次QC海外視察チーム団長，PL問題を日本に紹介(JUSE) ・国際協力委員会委員(-78, ASQC) ・規格合理化委員会委員長として改善提案書「日本工業規格について」提出(JSA)	・信頼性海外視察チーム派遣(1月, JUSE) ・QC視察団ヨーロッパ派遣(中品協) ・「品質表」についての発表(福岡QC大会) ・『品質管理』誌, SQC賞を創設(6月, JUSE) ・経営管理技術教育担当者協議会，全国大会開催(7月, JUSE)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1972年(昭47) (57歳)	・ ISO/TC102/SC1 第 7 回国際会議議長 ・ 大気汚染防止技術国際シンポジウム組織委員長(JUSE) ・ IAQ メンバー ・ 1971年度グラント賞(QCの教育・普及)受賞(ASQC)	・ IAQ 会議：ワシントンで開催(ASQC 年次大会と合同)、IAQ 創設 ・ QC サークル推進者コース開講(5月, JUSE) ・ QC サークル夏季大学(高野山)(7月, JUSE) ・ PL 研究委員会設置(10月, JUSE) ・ 経営者 QC 会議組織(12月, JUSE) ・ 工業生産住宅等品質管理優良工場認定制度創設(通産省) ・ 米国：消費者製品安全法を制定、プロダクト・ライアビリティ(PL)が社会問題となる ・ 第15回 QCS “不況克服のための QC” ・ 第16回 QCS “わが社の全社的品質管理”
1973年(昭48)	・ QC サークルに関するトップコース運営委員会運営委員長(JUSE) ・ 日ソ標準化懇談会委員(JSA) ・ 工業標準化・品質管理の代表団の一員として訪中 ・ 第 6 次 QC サークル海外派遣チームの総監督としてヨーロッパへ(団長：大場興一)(JUSE) ・ 『プロダクト・ライアビリティ』(共著)刊行(11月, 日科技連出版社)	・ デミング賞事業所表彰を創設(11月)初表彰：三菱重工業・神戸造船所 ・ QC サークルに関するトップコース開講(1月, JUSE) ・ 『現場と QC』誌が『FQC』誌に改題(1月, JUSE) ・ 流通部門 QC 研究会(繊維関係)(4月, JUSE) ・ プロダクト・ライアビリティ(PL)海外視察チーム派遣(8月, JUSE) ・ 太平洋地域標準化会議(PASC)を開催(第1回, ホノルル) ・ 米国専門家による PLP セミナー開催(10月, JUSE) ・ 医薬品の製造の QC(JGMP)(日本製薬団体連合会) ・ ソ連標準化代表团来日 ・ 中国工業標準化・品質管理代表团来日(10月)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1973年(昭48) (58歳)		・ QC サークル視察団来日(11月, ロッキード社), 帰国後, 米国ではじめて QC サークルを組織 ・ ヨーロッパで初の QC サークル生まれる Sanuier-Dubal 社(フランスの電気モーター会社) ・ プロダクト・ライアビリティ研究会設置(11月, JUSE) ・ 第17回 QCS “品質保証と故障解析” ・ 第18回 QCS “工程能力”
1974年(昭49) (59歳)	・ 日本品質管理学会会長(-75) ・ 第1次海外進出企業 QC 調査団(東南アジア)団長(JUSE) ・ 「発展途上国の輸出工業振興コース」主任講師(UNIDO/AOTS) ・ JIS Z 8402『分析・試験の許容差通則』制定(原案作成委員会委員長) ・ 日本環境測定分析協会名誉会員 ・ 『品質保証ガイドブック』(編)刊行(10月, 日科技連出版社)	・ QC サークル東北支部発足(4月, QC サークル本部) ・ 営業部門の QC 入門コース開講(3月, JUSE) ・ 住宅産業 QC 研究部会発足(通産省) ・ ジュラン博士招聘, 「サービス業 QC シンポジウム」開催(10月, JUSE) ・ ISO/TC69, SC1新設 ・ 国際標準化協力センター発足(JSA) ・ 工業標準化長期計画策定(工技院) ・ 「発展途上国の輸出工業振興コース」開講(-76, UNIDO/AOTS, 77-, 工業製品の品質改善コースと改称) ・ 第19回 QCS “省資源・省エネルギー時代における QC の役割” ・ 第20回 QCS “新製品の企画とその評価”
1975年(昭50) 2月23日	・ 母富美子逝去(79歳) ・ 第8次品質管理海外視察チーム(ヨーロッパ派遣)総監督(JUSE) ・ IAQ 副会長(-78) ・ 日本品質管理学会評議員(-77)	・ 信頼性データ研究会設置(4月, JUSE) ・ 品質管理セミナー・中堅作業者の QC 基礎コース開講(3月, JUSE) ・ PLP セミナー開講(3月, JUSE) ・ 第30回 ASQC 年次大会で QC サークル・セッションが開かれる ・ IAQ 会議(ベニス, 9月, EOQC 大会と合同)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1975年(昭50) (60歳)	・インターナショナルフレンドシップ・クラブ会員 ・日経品質管理文献賞受賞『品質保証ガイドブック』(編著)(日科技連出版社)	・デミング賞25周年, デミング博士招聘 ・韓国工業振興庁がQCの推進を開始 ・韓国第1回全国QCサークル競進大会, 第1回品質管理および標準化大会開催 ・韓国工業振興庁・規格協会調査団来日 ・ソ連へ代表団を派遣(日ソ標準化懇談会) ・第21回QCS“製品責任対策”
1976年(昭51) 3月31日 4月1日 5月18日 (61歳)	・東京大学定年退官 ・東京理科大学工学部教授 ・東京大学名誉教授 ・㈱日本鉄鋼協会浅田賞受賞 ・第2次海外進出企業QC調査団(中南米)団長(JUSE) ・PASC委員 ・フィリピン品質管理協会名誉会員 ・日科技連出版社取締役 ・㈱燃料協会賞受賞	・イラン品質管理調査団来日(APO) ・東アジアQCサークル国際交流会を開催(第1回, 4月, ソウル) ・TQC推進実務コース開講 [79-, TQC推進担当者コース] (6月, JUSE) ・“工業標準化基本問題懇談会”(工技院) ・発展途上国向け「食品加工業の品質管理セミナー」開催(APO, 2回目 78) ・第22回QCS“データの活用” ・第23回QCS“品質とコスト”
1977年(昭52) 9月	・ICQC'78-TOKYOプログラム委員会委員長(-78, JUSE) ・日本工業標準調査会 ISO 部会長(通産省) ・日農工標準化特別委員会委員長(日本農業機械工業会) ・工業技術院計量研究所成分測定課研究員 ・第20回標準化全国大会実行委員長(JSA) ・メキシコ品質管理研修コース運営委員会委員長(JICA/JUSE) ・藍綬褒章(工業標準化)受章	・日本品質管理学会, 社団法人認可される(4月) ・納谷嘉信等: “新QC七つ道具” 提唱(1月), 研究委員会を設置(5月, JUSE) ・QCサークル・リーダーコース開講(7月, JUSE) ・官公庁建築Q-S懇談会(JSA) ・メキシコ品質管理研修チーム来日(JICA/JUSE) ・第1回PL世界大会開催(ロンドン) ・近藤良夫, グラント賞を受賞(ASQC) ・医薬品の製造と品質管理(GMP)セミナー(9月, JUSE)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1977年(昭52) (62歳)	・アルゼンチン品質管理協会名誉会員 ・『新版品質管理便覧』(編著)刊行(第2版88/4月, JSA)	・プレハブ建築協会 TQC 講習会 ・IEC 第22代会長高木昇選出 ・第4回 ICPR 大会(IE の国際会議) ・第24回 QCS “品質設計と工程設計” ・第25回 QCS “小集団活動と QC”
1978年(昭53) 4月1日 (63歳)	・武蔵工業大学学長就任 ・学校法人五島育英会理事 ・勸とうきゅう外来留学生奨学財団理事 ・日中工業技術文化センター理事長(-82) ・工業標準化制度改正審議特別委員会委員(通産省) ・農業機械標準化政策委員会委員長(通産省) ・PASC 国内対策委員長 ・品質管理専門家として訪イラン・タイ(4月, APO) ・産業構造審議会臨時委員(-79, 通産省) ・訪中品質管理技術交流団団長, QC 講習会/交流会を開催 ・ICQCC'78-TOKYO プログラム委員会委員長(JUSE) ・IAQ 理事(-81) ・企業管理部会部会長(日中経済協会)	・建築業 TQC 懇談会(JSA) ・畳床製造および畳加工業に QC 入門コース(全畳連/JSA) ・中国国家経済委員会訪日代表团(団長袁宝華), 日本の QC 実態調査 ・中国標準化協会(CAS)ISO 加盟 ・水野・赤尾:『品質機能展開』刊行(6月, JUSE 出版) ・新 QC 七つ道具研究会発足(6月, 大阪, JUSE) ・中国: 全国工業交通戦線品質月間活動 ・ICQCC '78-TOKYO 開催(初の QC サークル国際大会, 10月, JUSE) ・ICQC'78-TOKYO 開催(10月, JUSE) ・IAQ 会議, 京都で開催 ・新 QC 七つ道具シンポジウム(10月, JUSE) ・神奈川県品質管理県民大会開催(神奈川県 QC 研究会25周年記念) ・第26回 QCS “国際協力と日本の品質管理” ・第27回 QCS “国際協力-ICQC '78-TOKYO を踏まえて”
1979年(昭54) 11月2日	・次男哲, 野崎和子と結婚 ・第1次訪中品質視察団団長(JUSE/日中経済協会) ・国連工業開発機関(UNIDO)での講演(AOTS) ・勸とうきゅう環境浄化財団理事	・社内標準化品質管理実態調査(JSA) ・ISO/TC 176(品質保証) ・日本の QC への海外関心高まる QC サークル活動世界各国へ普及 ・事務・販売・サービスの QC サークルコース開講(8月, JUSE)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1979年(昭54)	・ 勸大学セミナーハウス評議員 ・ 『品質管理』誌編集委員会顧問 (JUSE) ・ IAQ 理事 (-81) ・ ISO/TC27 石炭・コークス国内委員会委員 ・ ISO 理事会メンバー ・ 第22回標準化全国大会実行委員長 (JSA) ・ 「水質自動計測器による計測方法安定化のための基礎調査」 (環境庁委託調査) ・ 日経品質管理文献賞受賞 『品質の管理ポイント』(共著) (税務経理協会)	・ 第1次訪中品質視察団派遣 (6月, JUSE/日中経済協会) ・ 日本が ISO/TC17(鋼)幹事国となる ・ 工業標準化法施行30周年記念 ・ 日本 ISO 永理事事国となる ・ 開発途上国 QC 教育(大阪, AOTS) ・ 山梨県品質管理県民大会を開催 (山梨県 QC 研究会10周年記念) ・ 竹中工務店デミング賞実施賞受賞(建築業で初めて, 11月) ・ サービス業の QC 研究委員会設置(11月, JUSE) ・ 第28回 QCS “商品企画と市場研究” ・ 第29回 QCS “これからの品質管理—1980年代の課題—”
(64歳)		
1980年(昭55)	・ 勸日本規格協会評議員 (-84) ・ 勸日本品質管理学会評議員 (-82) ・ 原子力発電所品質保証検討委員会委員長(通産省) ・ 勸日中経済協会管理部会会長 ・ 農業機械標準化調査研究委員会委員長 (-83, 日本農業機械工業会) ・ 日中科学技術交流協会会員 ・ 関東工業教育協会理事 ・ 日本私立大学協会理事 ・ 中国人管理技術者に対する「品質管理研修コース」主任講師 (-86, 中国企業管理協会/AOTS)	・ ソフトウェア生産管理研究委員会設置 (2月, JUSE) ・ 米国 NBC が特集番組「If Japan Can ..., Why Can't We?」放映, その後, NHK も放映し, 海外からの TQC 調査団の来日急増 ・ JIS マーク表示制度, 海外工場開放 ・ 国内 JIS 工場公示検査制度導入 ・ 工業標準化推進長期計画策定 ・ ソフトウェア生産管理セミナー 開講[82-, ソフトウェア品質管理セミナー] (5月, JUSE) ・ プロダクト・セイフティ・シンポジウム開催 (6月, JUSE) ・ QC サークル東南アジア視察団派遣 (10月, 団長: 草場郁郎, JUSE) ・ デミング賞創設30周年記念行事, デミング博士招聘 (JUSE) ・ QC サークル実施国35カ国を超える

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1980年(昭55) (65歳)	・『QC サークル綱領』英訳版刊行：“QC Circle Koryo, General Principle of the QC Circle” [中国語版, フランス語版(81), インドネシア語版(83), ポルトガル語版(85), スペイン語版(86), マラチ語版(87, インド)] (JUSE) ・英国 QC サークル協会名誉会長	・開発途上国向け「認証・検査制度コース」創設(JICA/JSA) ・第30回 QCS “サービスの品質管理” ・第31回 QCS “組立工業の QC”
1981年(昭56) (66歳)	・(財)燃料協会評議員 ・(財)学士会評議員 ・ISO Executive Board メンバー ・日中標準化交流協議会委員 ・ICQCC'81-TOKYO プログラム委員会委員長(JUSE) ・海外問題分科会(デミング賞実施賞の海外への門戸開放検討)委員長(-84) ・『日本の品質管理』刊行(増補版 84/ 1 月, 日科技連出版社) [中国版(台湾) (82), フランス語版(84), 中国語版(84, 86), 英語版(85), ポルトガル語版(86), スロベニア語版(87), オランダ語版(87), イタリア語版(92)] ・中国質量管理協会名誉顧問	・ISO/TC176 国内委員会設置(品質保証) ・第1000回記念 QC サークル大会(4 月, QC サークル本部) ・ジュラン博士叙勲, 勲二等瑞宝章 ・IAQ 会議(5 月, サンフランシスコ, ASQC 大会と合同) ・JIS 工場, 品質管理推進責任者選任義務づけ ・海外 JIS マーク承認会社第 1 号: Yokogawa Electric Singapore ・ソフトウェア生産 QC シンポジウム開催(7 月, JUSE) ・ICQCC'81-TOKYO 開催(9 月, JUSE) ・シンポジウム「TQC における方針管理」(9 月, JSQC) ・論文奨励賞授与(JSQC) ・第32回 QCS “品質管理におけるデータ解析” ・第33回 QCS “全社の品質管理の反省と展望”

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1982年(昭57)	・武蔵工大石川研究室発足(-86) ・(㊦)日中科学技術文化センター理事長(-88) ・訪中 QC サークル代表団団長(JUSE/日中経済協会) ・ICQCC'82-Seoul 特別講演(11月, 韓国工業標準協会) ・IAQ 会長(-84) ・日本信頼性技術協会(REAJ) 会員 ・Quality Management 研修コース講師(AOTS) ・勲日本経営協会経営科学文献賞受賞 『日本の品質管理』(日科技連出版社) ・(㊦)日本品質管理学会名誉会員	・訪中 QC サークル代表団(9月, JUSE/日中経済協会) ・TQC 専門委員会(建築業協会) ・シンポジウム「TQCにおける方針管理II」(9月, JSQC) ・デミング博士招聘(11月, JUSE) ・OR 学会創立25周年記念事業 ・ICQCC'82-Seoul 開催(韓国) ・シンポジウム「要求品質展開」(JSQC) ・第34回 QCS “これからの品質管理” ・第35回 QCS “原価と QC”
1983年(昭58) 4月9日	・第七郎逝去(57歳) ・私立大学等情報処理教育連絡協議会管理委員(-85) ・和田薫幸会評議員 ・ICQCC'83-Taipei 基調講演(PETT) ・1982年度シェーハート・メダル受賞(ASQC) ・(㊦)日本能率協会第1回経営技術開発賞受賞「QC サークル活動」 ・皇太子殿下(当時)に対し品質管理についてご進講(東宮御所にて, 11月11日)	・サービス産業における品質管理シンポジウム開催(7月, JUSE) ・管理者・スタッフのための新 QC 七つ道具研究会(東京地区)設置(9月, JUSE) ・シンポジウム「サービスの QC」(JSQC) ・ICQCC'83-Taipei開催(PETT, 台湾) ・第36回 QCS “ロボティックスと QC” ・第37回 QCS “製品企画における品質保証”
1984年(昭59)	・武蔵工大事務局に QC サークルを発足させる ・日本オペレーションズ・リサーチ学会評議員	・QC サークル沖縄支部発足(2月, QC サークル本部, 全国で9支部) ・シンポジウム「機能別管理の運営」(JSQC)

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1984年(昭59) (69歳)	・IAQ 理事(-87) ・日本産業研究所諮問委員 ・デミング賞実施賞委員会の海外問題分科会委員長として「デミング賞実施賞の国際化」に関する答申をデミング賞委員会に提出，答申通り決定	・IAQ 会議(英国ブライトン, EOQC 大会と合同) ・米国，10月を品質月間に制定 ・関西電力デミング賞受賞(電力業で初めて，11月) ・経営工学関連学会協議会(FMES)設立(JSQC, JIMA, ORSJ) ・日本学術会議法改正(閣議)，「第5部工学」に「経営工学」新設 ・ICQCC '84-Manila 開催 ・第38回 QCS “営業部門と TQC” ・第39回 QCS “TQC-現状と課題”
1985年(昭60) 6月15日 (70歳)	・快挙“ホールインワン”(東名御殿場カントリークラブ) ・勲海外技術者研修協会理事(-87) ・私立大学等情報処理教育連絡協議会会計監査委員 ・ICQCC'85-TOKYO プログラム委員会委員長(JUSE) ・第13回 ISO 総会(東京)組織委員会副委員長・日本側代表 ・IAQ 理事(-87) ・『QC サークル活動運営の基本』英訳版刊行 “How to Operate QC Circle Activity”，(JUSE) [中国語版，韓国語版(76)，ポルトガル語版(84)，イタリア語版(87)，] ・アジア太平洋地域品質管理協会第1回国際賞受賞 ・ブラジル品質管理協会名誉顧問，名誉会員 ・コロンビア品質管理協会名誉会員	・QC サークル実施国，52カ国 ・ソフトウェア QC 研究会(4月, JUSE) ・ICQCC'85-TOKYO 開催(5月, JUSE) ・シンポジウム「第3次経営技術革新」(FMES) ・情報技術標準化研究センター(JSA) ・第13回 ISO 総会(9月，東京) ・第14代 ISO 会長('86-'88) 経団連副会長山下勇選出 ・ISO/TC69, TC176東京で開催 ・デミング賞創設35周年記念，デミング博士招聘(11月, JUSE) ・サービス産業品質管理大会開催(JUSE) ・第40回 QCS “TQC—将来への方向づけ” ・第41回 QCS “TQC—施策と展開”

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1986年(昭61)	・ 米国下院議員訪日調査団に対し て講演, マルコム・ボルドリ ッジ国家品質賞制定へのイン パクトを与える(1月) ・ 国際標準化協議会副会長 ・ 国際統計学会(第46回)大会運営 本部参与部員(-87) ・ 開発途上国向け「工業標準化・ 品質管理シニア・セミナー」 プログラム・コーディネータ, 講師(JICA/JSA) ・ 「工業製品の品質改善コース・ フォローアップコース」主任 講師(UNIDO/AOTS, クアラ ルンプール) ・ アメリカ品質管理学会名誉会員	・ (財)日本品質管理学会15周年記念祝賀 会, 『15年のあゆみ』 発刊 ・ シンポジウム「不良率 ppm 管理への道」 (6月, JSQC) ・ 発展途上国向け「工業標準化・品質管 理シニア・セミナー」開講(JICA/ JSA) ・ 第6次工業標準化推進部門別長期計画 (-90)(工技院) ・ 国際標準化100年祭 ・ ICQCC'86-Seoul 開催(10月, 韓国) ・ 第42回 QCS “品質－現状と課題” ・ 第43回 QCS “新技術開発・新商品企画 と QC”
(71歳)		
1987年(昭62)	・ 発展途上国向け「工業製品品質 改善コース」フォローアップ セミナー主任講師(クアラレン プール, UNIDO/AOTS) ・ 武蔵工業大学, オレゴン工科大 学と姉妹校提携 ・ ISO/TC102日本委員会顧問 ・ ICQC'87-TOKYO, プログラム 委員会委員長(JUSE) ・ IAQ 名誉会員(Academician Emeritus) ・ 『QC サークル』誌 25 周年永続 の委員表彰を受ける	・ QC サークル25周年記念祝賀会(4月, QC サークル本部) 『QC サークル活動25年史』刊行 QC サークル活動普及実態全国調査 ・ QC サークル実施国, 60カ国 ・ ISO 規格(9000-9004: 品質保証関係) 制定 ・ 「日本の全社的品質管理の特徴10項目」 選定(第44回 QCS, JUSE) ・ マルコム・ボルドリッジ国家品質賞を 制定(8月, 米国政府) ・ ICQC'87-TOKYO 開催(JUSE) ・ IAQ 会議(東京) ・ EOQC: EOQ に名称変更 ・ ICQCC'87-Bangkok 開催(12月, タイ) ・ 第44回 QCS “日本の QC の特徴と問題 点そのII” ・ 第45回 QCS “環境変化と品質経営”
(72歳)		

年	履 歴	Q C 界 の 動 き
1988年(昭63) 11月3日 (73歳)	・(社)日中科学技術文化センター会長 ・勲二等瑞宝章受章	・『FQC』誌が『QC サークル』誌に改題(1月, JUSE) ・第2000回記念 QC サークル大会(3月, QC サークル本部) ・EFQM 設立(9月) ・ソフトウェア品質管理セミナー部課長コース開講(10月, JUSE) ・第1回マルコム・ボルドリッジ国家品質賞授与(10月, アメリカ) ・常磐ハワイアンセンター, デミング賞実施賞事業部賞受賞(サービス業で実質的に初めて, 11月) ・ICQCC'88-Taipei 開催(11月, 台湾) ・海外 JIS マーク表示承認100件突破 ・第46回 QCS “品質管理教育—現状と今後の方向” ・第47回 QCS “新商品企画と市場研究—顧客要求品質をどう把握するか”
1989年(昭64・平1) 1月23日 1月31日 3月16日 4月16日 4月18日 4月19日 4月24日	・叙勲祝賀パーティー(於: ホテルオークラ) ・『第3版品質管理入門』刊行(日科技連出版社) 英語版: “<i>Introduction Quality Control</i> (3rd Edition)”, (3A Corporation) ・日本オペレーションズ・リサーチ学会フェロー ・没 享年73歳 ・通夜 調布市飛田給の自宅にて ・密葬 同上 ・芝増上寺大蔵にて葬儀・告別式(武蔵工大・日科技連合同葬)	・ソフトウェア製品品質管理調査団海外派遣(4月, JUSE) ・日本品質管理界のリーダー, 石川 馨(4月), 西堀栄三郎(4月), 水野滋(5月)各氏逝去 ・品質管理ベーシックコース40周年記念, 修了者数約2万4000名(JUSE) ・工業標準化法施行40周年記念第32回全国標準化大会開催(JSA) ・フロリダ電力会社デミング賞受賞(海外から初めて, 11月) ・ICQCC'89-New Delhi 開催(12月, インド) ・第48回 QCS “TQC-1990年代に向けて” ・第49回 QCS “TQC の効果的運営”

- ・1989年11月 勲海外技術者研修協会表彰(AOTS)
- ・1990年3月 「FQC 賞」を「QC サークル石川 馨賞」に改称(JUSE)
- ・1993年6月 Ishikawa Medal 創設(ASQC)

1. 「履歴」あるいは「QC 界の動き」欄の年号の記述は、西暦を用い、例えば1966年は、単に66と略記した。
2. 各種委員・役員の任期の終了年は、その記述の最後に括弧中に示した。たとえば、「・群馬大学非常勤講師(-66)」は、1966年まで勤めたことを意味する。何も記述されていない場合は、終身その任にあったことを意味する。
3. 「品質管理」は、多くの場合「QC」と略記した。
4. 個人名は敬称略とした。
5. 本年譜で使用した略号は次の通りである。
 - 1) AGREE : Advisory Group on Reliability of Electronic Equipment(電子機器信頼性諮問委員会)
 - 2) AOTS : Association for Overseas Technical Scholarship(助海外技術者研修協会)
 - 3) APO : Asian Productivity Organization(アジア生産性機構)
 - 4) ASA : American Standards Association(アメリカ規格協会、後に ANSI)
 - 5) ASQC : American Society for Quality Control(アメリカ品質管理学会)
 - 6) BS : British Standards(英国規格)
 - 7) CCS : Civil Communication Section(民間情報局)
 - 8) COSCO : Control System Committee(管理方式研究会, JSA)
 - 9) EOQC : European Organization for Quality Control(ヨーロッパ品質管理機構：現在は EOQ)
 - 10) EOQ : European Organization for Quality(ヨーロッパ品質機構)
 - 11) EFQM : European Foundation for Quality Management(ヨーロッパ品質管理財団)
 - 12) FMES : Japan Federation of Managerial Engineering Societies(経営工学関連学会協議会)
 - 13) GHQ : General Headquarters(連合国軍総司令部)
 - 14) IAQ : International Academy for Quality(国際品質アカデミー)
 - 15) ICQC : International Conference on Quality Control(品質管理国際会議)
 - 16) ICQCC : International Convention on QC Circle(国際 QC サークル大会)
 - 17) IEC : International Electrotechnical Commission(国際電気標準会議)
 - 18) ISO : International Organization for Standardization(国際標準化機構)
 - 19) JICA : Japan International Cooperation Agency(国際協力事業団)
 - 20) JIMA : Japan Industrial Management Association(社)日本経営工学会)
 - 21) JIS : Japanese Industrial Standard(日本工業規格)
 - 22) JISC : Japanese Industrial Standards Committee(日本工業標準調査会)
 - 23) JMA : Japan Management Association(社)日本能率協会、日能)
 - 24) JPC : Japan Productivity Center(助)日本生産性本部)
 - 25) JSA : Japan Standard Association(助)日本規格協会、規格協会)
 - 26) JSQC : Japanese Society for Quality Control(社)日本品質管理学会)
 - 27) JUSE : Union of Japanese Scientists and Engineers(助)日本科学技術連盟、日科技連)
 - 28) ORSJ : The Operations Research Society of Japan(社)日本オペレーションズ・リサ

ーチ学会, OR 学会)

- 29) Q-S 大会：品質管理と標準化大会 (JSA)
- 30) QCS：品質管理シンポジウム (JUSE)
- 31) OTCA：Oveseas Technical Cooperation Agency (海外技術協力事業団)
- 32) PASC：Pacific Area Standards Congress (太平洋地域標準化会議)
- 33) PETT：Pioneer Enterprise Think Tank (先鋒企業管理発展中心, 台湾)
- 34) TC, SC, WG：Technical Committee, Sub Committee, Working Group (ISO 下部組織)
- 35) UNIDO：United Nations Industrial Development Organization (国際連合工業開発機関)

注) 本年譜の作成に際しては、小浦孝三氏ご提供の原稿をベースとした。また、『新版品質管理便覧 [第2版]』(1988, 日本規格協会)の巻末年表(藤田董氏執筆), 『15年のあゆみ』(1986, 日本品質管理学会), 『20年のあゆみ』(1991同)を参考にした。なお, 「QC 界の動き」欄の諸々の確認にあたっては, 日科技連事務局の方々, 日科技連出版社の方々, 日本規格協会川村正信氏ならびに多くの方々の協力を得た。